

# インドの8月の消費者物価指数は前年同月比で+3.36% インフレ目標を下回る水準を維持

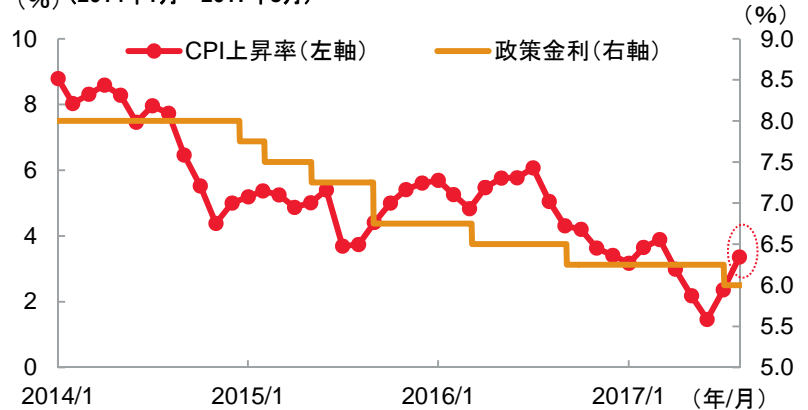
情報提供資料 2017年9月14日

9月12日に発表されたインドの8月の消費者物価指数(CPI)は+3.36%(前年同月比、以下同じ)となりました。7月に続き野菜価格の上昇が影響したものの、インド準備銀行(中央銀行、RBI)のインフレ目標(4%)を下回りました。

## 消費者物価指数(CPI)上昇率の高まり

- CPIは統計開始以来、最低となった6月の+1.46%から7月、8月と2ヵ月連続の上昇となりました。玉ねぎやトマトなどの野菜価格が2ヵ月で2%近く上昇し、食品品価格を押し上げたことが主な要因となっています。
- また、RBIが8月の金融政策決定会合の声明文で指摘していた通り、公務員の住宅手当引き上げの影響を受けた住宅費の上昇もCPI上昇要因の一つとなりました。
- 一部の野菜価格は大雨の影響で、7月中旬から上昇しましたが、9月に入って早熟トマトの前倒し出荷などにより、低下しています。

政策金利と消費者物価指数(CPI)上昇率(前年同月比)の推移  
(%) (2014年1月~2017年8月)

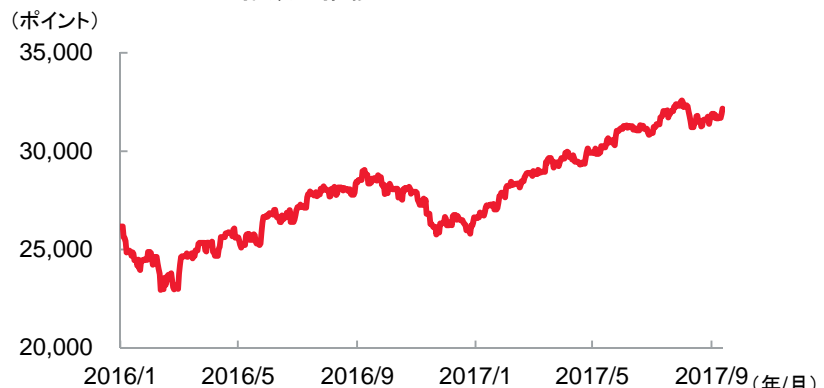


出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。CPI 上昇率は2014年12月までは旧基準(2010年=100)、2015年1月以降は新基準(2012年=100)による統計。\*現在のインド準備銀行のCPI上昇率の中期的な目標水準は、4%±2%。

## 金融市場の反応

- CPI発表を受けた翌9月13日の金融市場では、寄り付き直後(インド時間9:30)の時点で、代表的な株価指数であるSENSEX指数は前日比上昇、インド10年国債利回りは前日と比べて0.03%上昇(価格は下落)と、落ち着いた動きとなっています。

インドSENSEX指数の推移 (2016年1月1日~2017年9月12日)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

## 今後の見通し

- 物価の安定を背景に、8月の金融政策決定会合で、RBIは10ヵ月ぶりに利下げを実施しました。その後、発表された2017年4-6月期の実質国内総生産(GDP)は+5.7%(前年同期比)と伸び率が低下しており、市場では景気支援のための利下げを求める声もあります。
- 8月のCPIは上昇しましたが、依然としてRBIのインフレ目標である4%を下回っています。7月の物品・サービス税(GST)導入の影響などから、需要の伸びが精彩を欠く状況となっていることもあり、当社では引き続き利下げ余地はあると見ています。

インド10年国債利回りの推移 (2016年1月1日~2017年9月12日)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。  
※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。